

経営比較分析表（令和元年度決算）

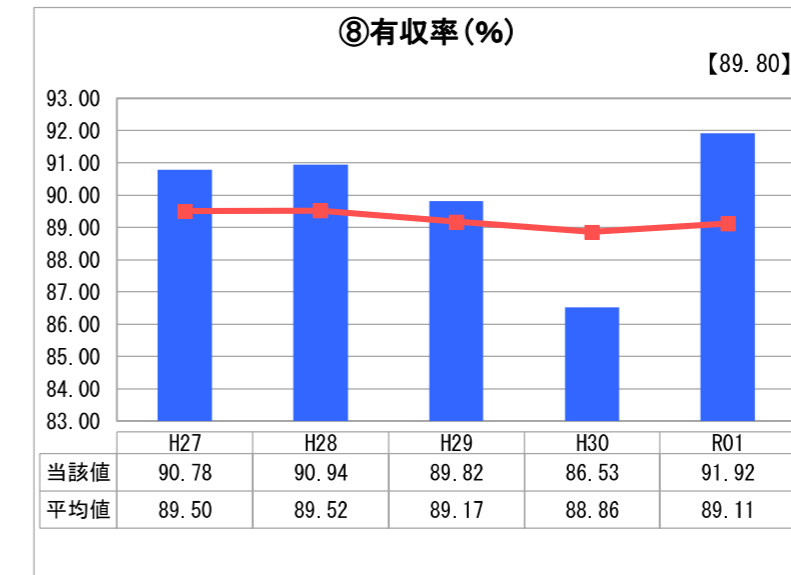
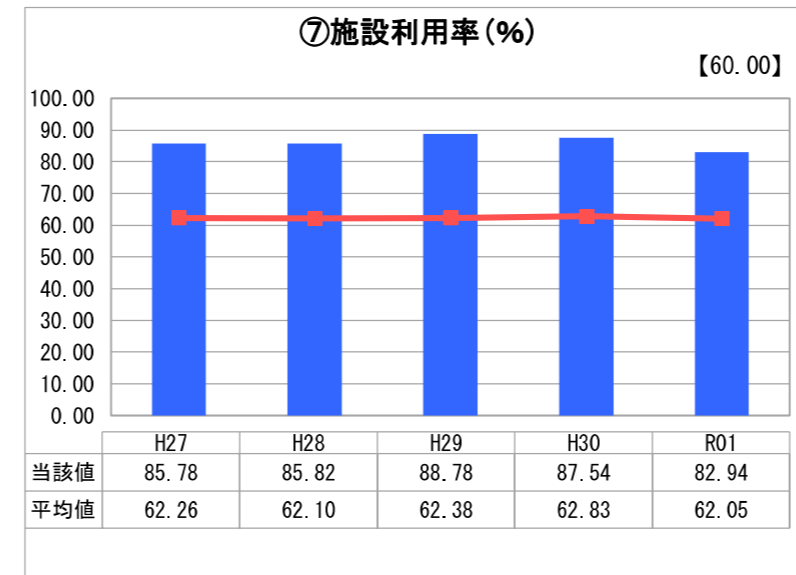
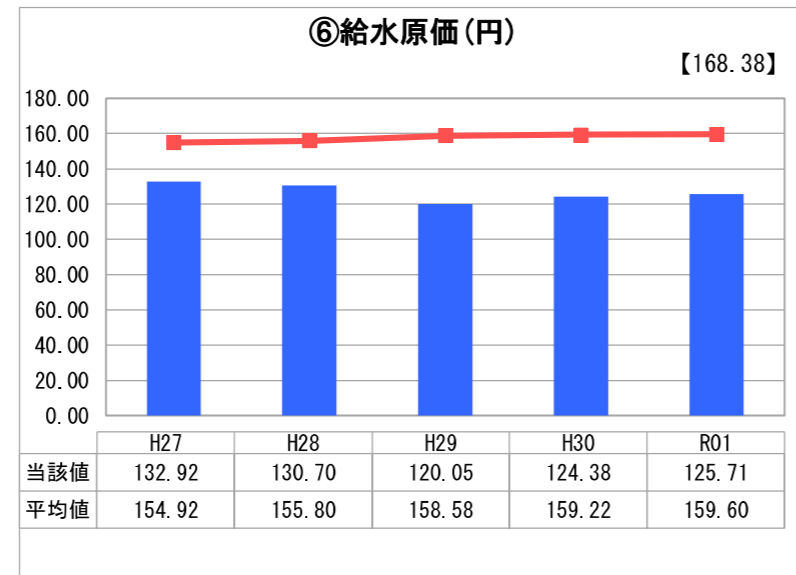
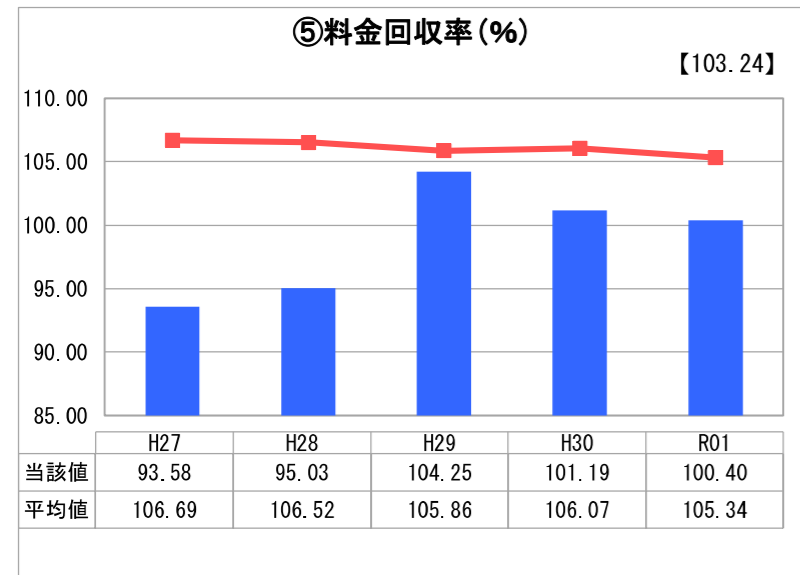
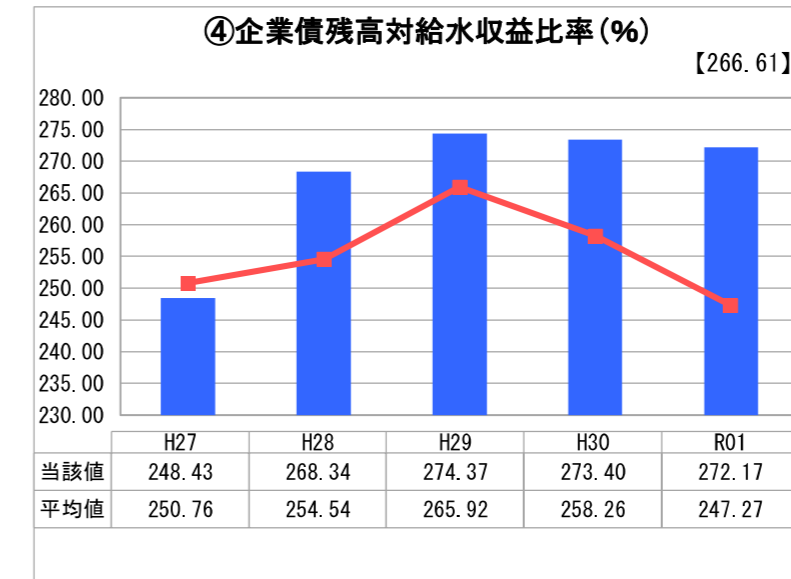
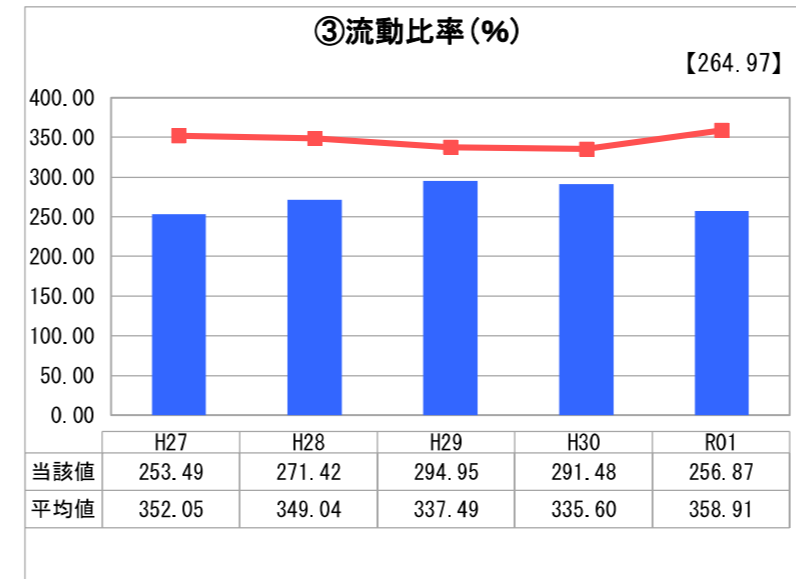
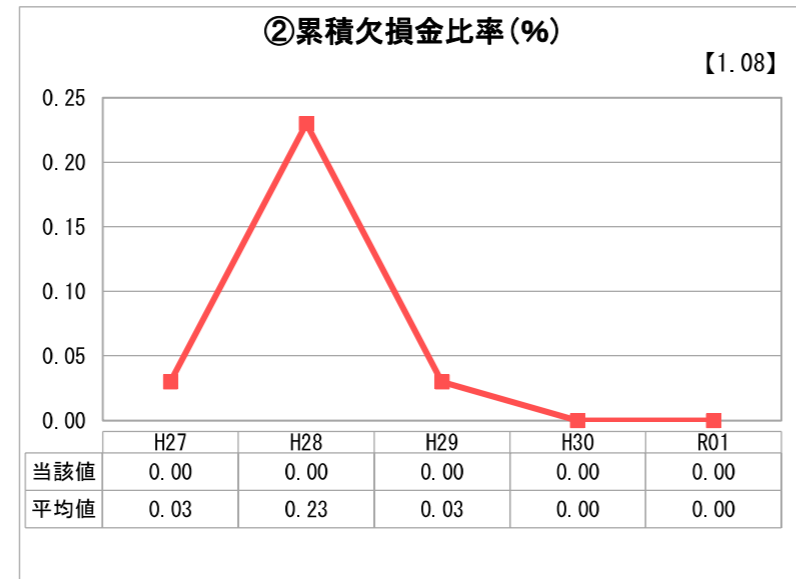
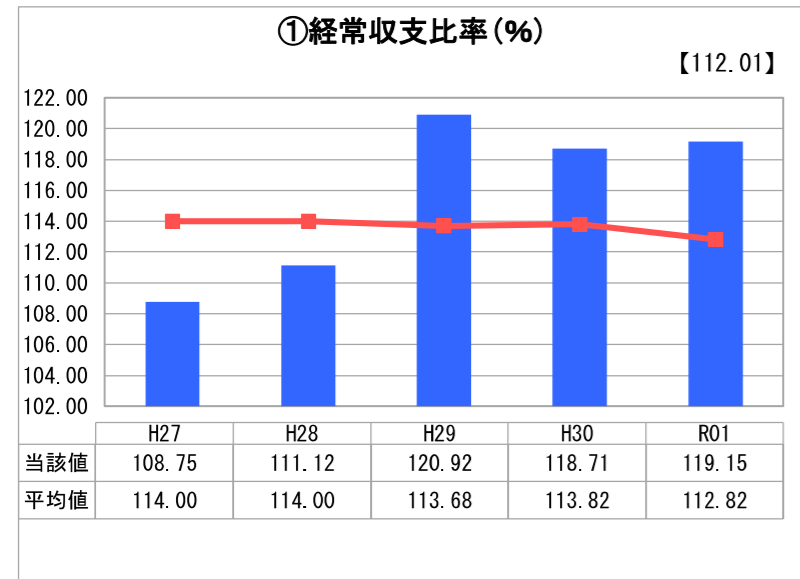
埼玉県 朝霞市

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|--------|
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A3 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) | |
| - | 69.47 | 100.00 | 2,035 | |

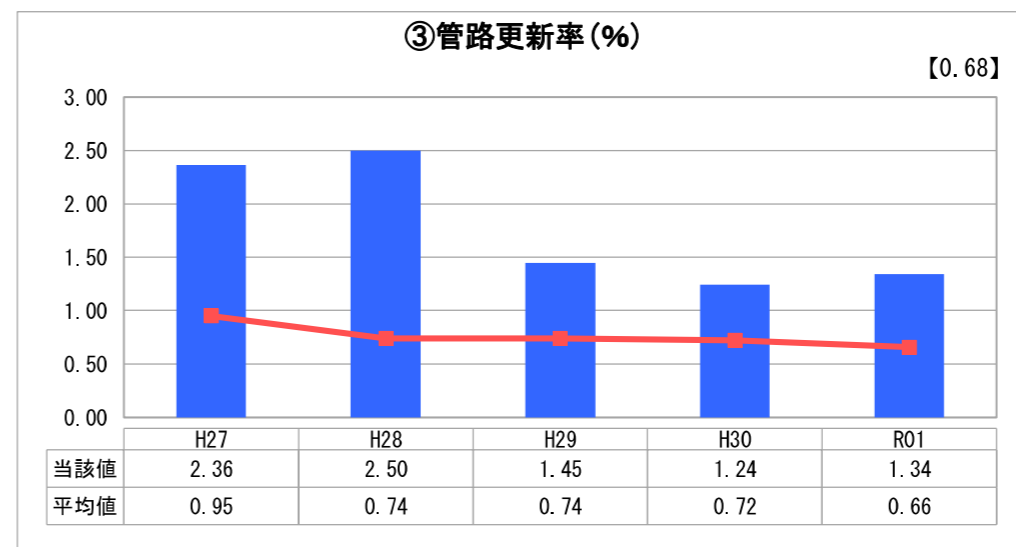
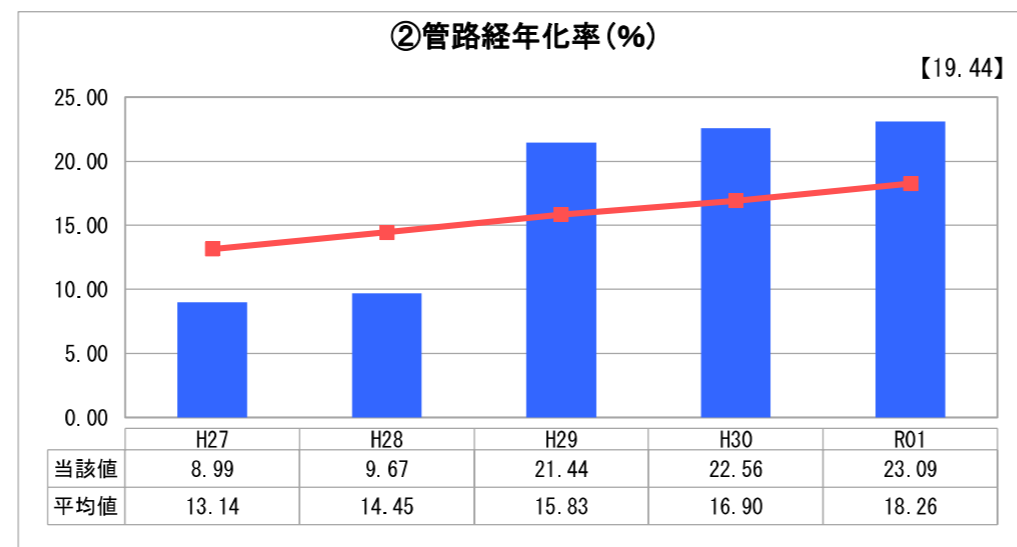
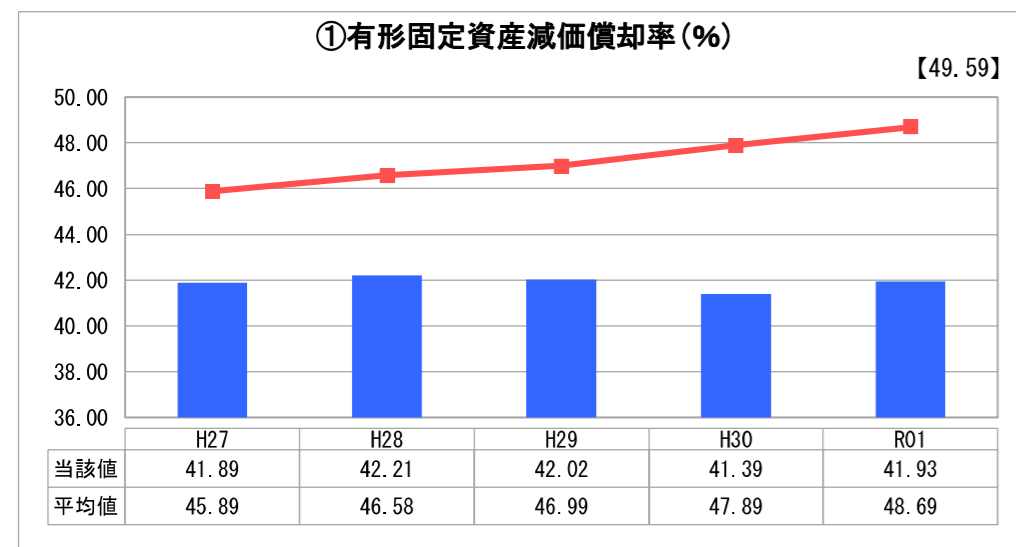
| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 141,802 | 18.34 | 7,731.84 |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 142,073 | 18.34 | 7,746.62 |

| グラフ凡例 | |
|--------------|--------------|
| ■ | 当該団体値(当該値) |
| — | 類似団体平均値(平均値) |
| 【】 令和元年度全国平均 | |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益性を見る経営指標は近年好調で、水道料金収入も大口需要者の使用量増により若干ではあるが増加の傾向を示している。
 しかし、収益的支出における減額要素の一つは支払利息であり、これは平成12年度以降、平成26年度まで企業債借入が無いため減少しているが、平成27年度から借入を再開したことで、今後は増加していくこととなる。
 また、純利益の主な要因は、見込みが不確定な水道利用加入金となっていることから、必ずしも安定経営とはいえない状況にある。
 損益ベースでは好調に見える経営状況であるが、資金ベースでみると、企業債残高対給水収益比率が平均より上回っていることから、現金の確保を企業債に頼っている状況といえる。
 平成27年度から借入している企業債について、令和5年度までは企業債の対象となる工事費の全額を借り入れることとしており、増加の一途をたどることになるが、償還元金を賄う利益を生み出すことは容易ではないため、今後の資金確保が課題となる。

2. 老朽化の状況について

老朽管更新事業は、その全額を企業債により実施しているが、経年化率は年々上昇している。直近5年間の更新ペースでは、更新終了まで240年かかることから、経年化率は今後も上昇することが見込まれる。現在、更新時期となっている2か所ある浄水場の更新が終了した時点から老朽管更新事業のペースを上げたいと考えている。
 しかし、次期の浄水場更新事業が20年周期で訪れることや、全額を企業債で賄わなければ資金を確保できなくなるなど、資金不足に陥る傾向にあるといえる。

全体総括

一見、好調に見える経営状況だが、資本造成の原資となる利益までは生み出せていない。資金の確保は、内部留保資金の取り崩しと企業債借入によるものとなっており、将来への負担を先送りしている。このため、現行の経営戦略では令和4年度に15%、令和8年度に15%の料金改定を見込んでいるが、経営戦略策定以降の水道事業を取り巻く環境は、コロナ禍における生活環境の変化等により想定外の事象もあることから、現状に合わせた時点修正を行い、将来に負担を先送りしない計画とすべきであるとされている。

経営比較分析表（令和元年度決算）

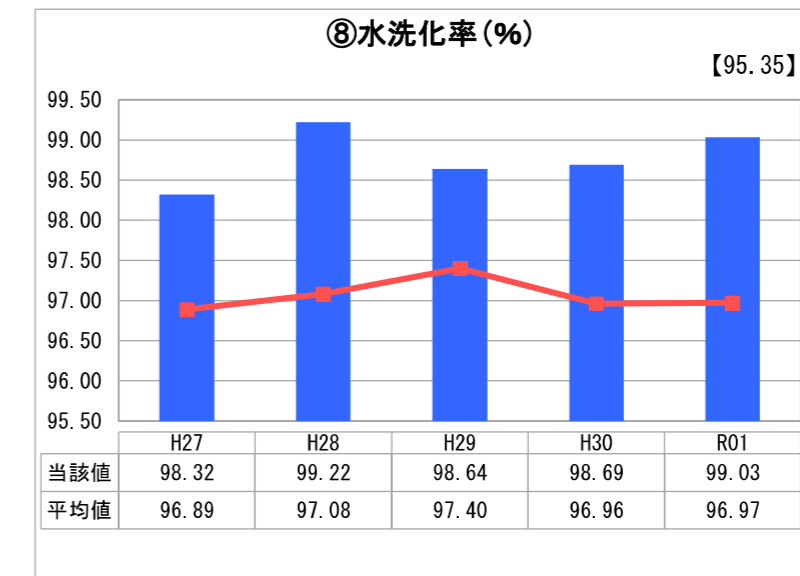
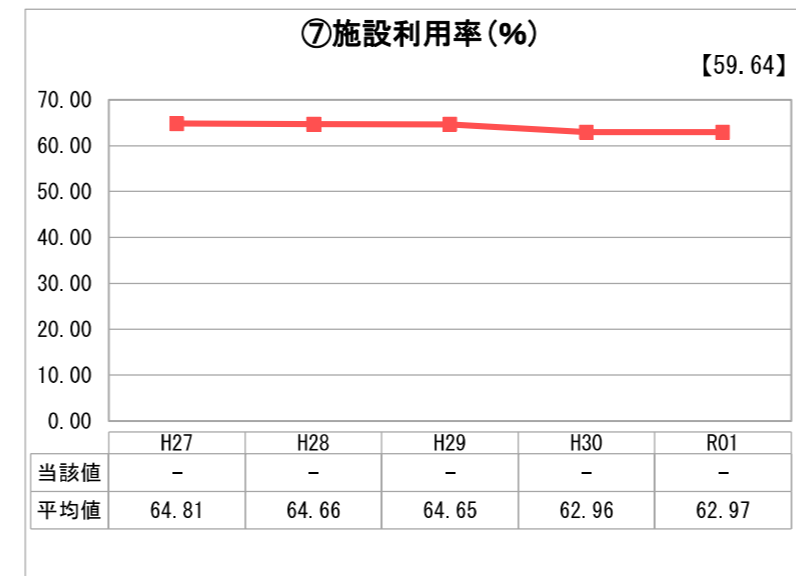
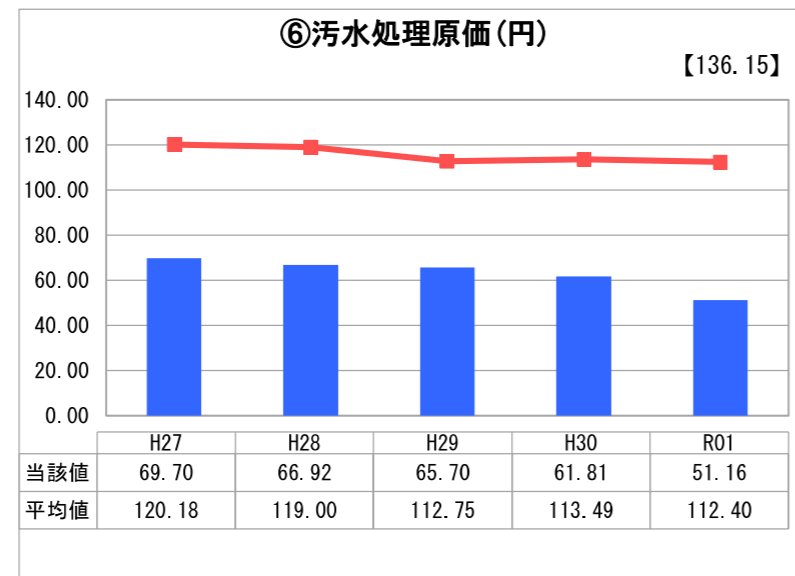
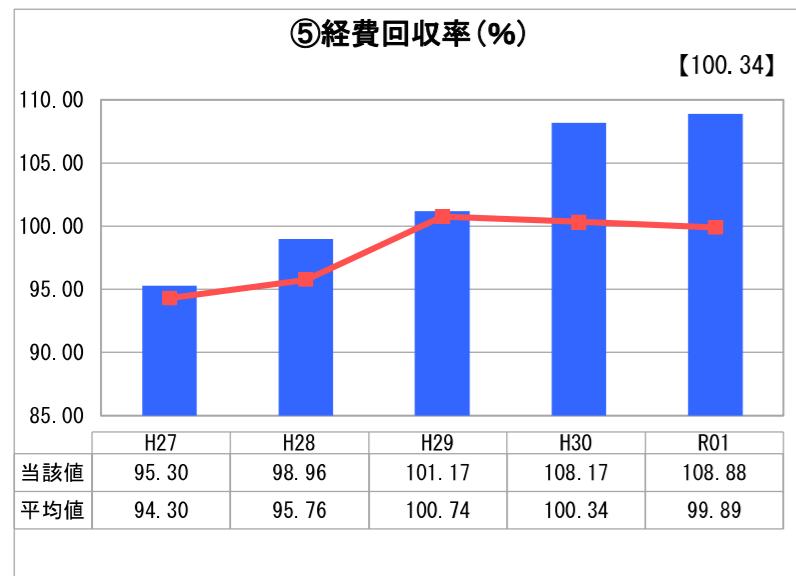
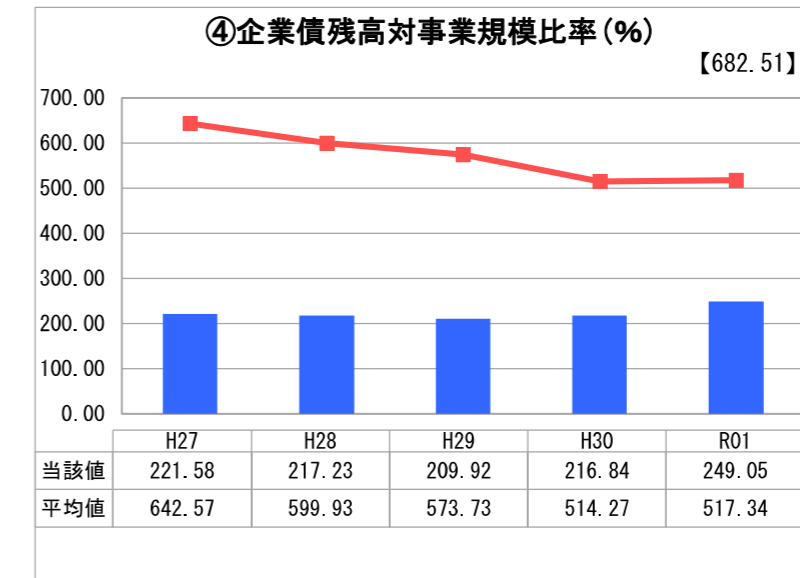
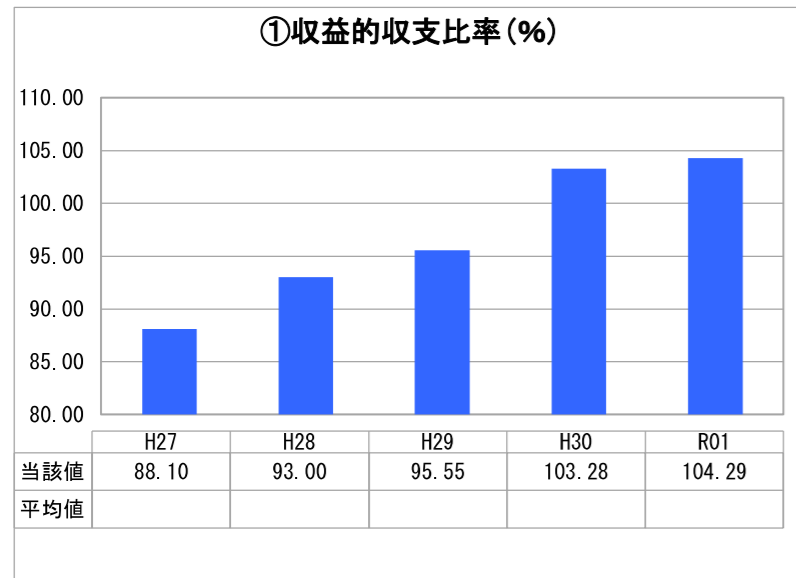
埼玉県 朝霞市

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------|--------------------------------|
| 法非適用 | 下水道事業 | 公共下水道 | Aa | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) |
| - | 該当数値なし | 97.75 | 79.98 | 1,155 |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 141,802 | 18.34 | 7,731.84 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 138,870 | 10.98 | 12,647.54 |

| グラフ凡例 |
|----------------|
| ■ 当該団体値(当該値) |
| — 類似団体平均値(平均値) |
| 【】 令和元年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
本市の下水道事業会計は、一般会計からの繰入れ及び下水道事業債で補っている状況ですが、近年は料金収入の増加のほか、企業債の償還額の減少により、収益的収支比率は改善傾向にあり、平成30年度決算からは収益的収支比率は100%を超えました。しかしながら、今後、据え置き期間の終了した比較的規模の大きい借入の償還が開始されることや、新規起債も予定されていることから、悪化に転じる可能性もあり、引き続き経営の効率化を図っていきます。

④企業債残高対事業規模比率
平成27年度ごろから毎年の借入額が上昇傾向にあり、これらの償還がまだ始まっていないこともあり、合わせて企業債残高も上昇傾向にあります。

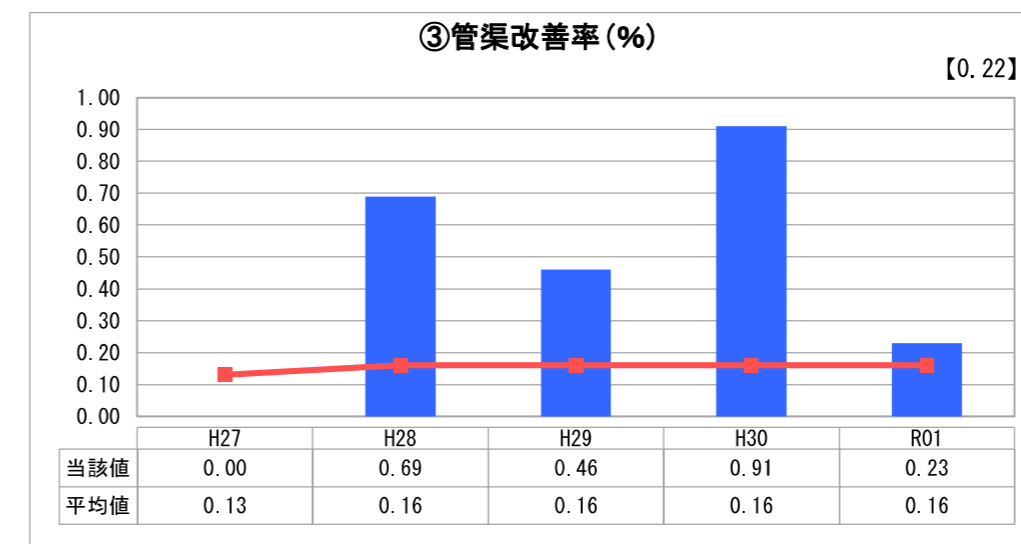
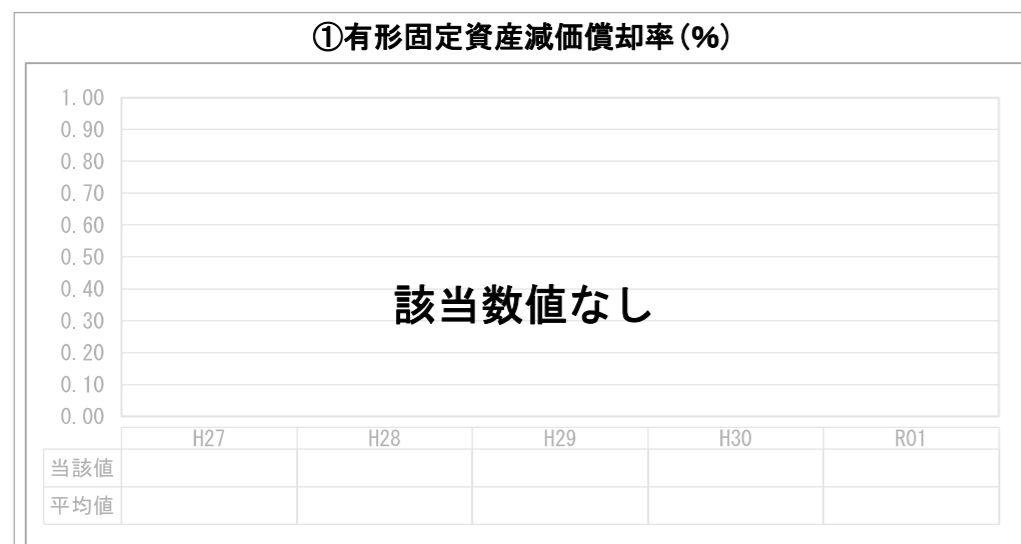
⑤経費回収率・⑥汚水処理原価
汚水管渠工事の減少のほか、下水道事業債の償還が進んだことで、結果として経費回収率及び汚水処理原価については改善傾向にあります。しかしながら、今後、料金収入の減少や、下水道施設の老朽化対策に係る費用が見込まれることから、経費回収率が悪化に転じる可能性もあり、動向を注視し、必要な措置を行っていく必要があります。

⑧水洗化率
同規模の他の自治体に比べて水洗化率は高い水準にありますが、未接続世帯の減少を図るため、今後も継続的に啓発活動を行います。

2. 老朽化の状況について

本市の下水道は供用開始から既に35年以上が経過し、下水道施設の老朽化が進んでいます。下水道施設の計画的な改修・更新を行っていくため、平成29年度からストックマネジメント事業に取り組んでおり、今後も計画に基づいた、適切な施設の維持管理を行ってまいります。

2. 老朽化の状況



全体総括

人口は増加傾向にあるものの、近年の節水意識の高まりから、料金収入の伸び悩みが見られ、また、施設・設備の老朽化に伴う更新投資の増大など、経営環境は厳しさを増しています。令和2年度より公営企業会計に移行し、経営基盤の強化・財政マネジメントの向上等に取り組んでいるところですが、今後も引き続き、各指標の動向を注視し、適切な管理・経営を行ってまいります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。